

“支配者面した慰霊，慰問の旅”

はもうゴメンだ

夏祭り太郎

1. また繰り返された「琉球処分」

去る3月27日から29日の3日間の日程で、アキヒト・ミチコの沖縄・与那国訪問があった。訪問先は、国立沖縄戦没者墓苑，与那国島（与那国馬，漁協の施設の見学，日本最西端の碑視察），豊見城市の沖縄空手会館など。アキヒト・ミチコが沖縄入りした3月27日は、いわゆる「琉球処分」の記念日だ。※1

そして、与那国に立ち立った3月28日は、与那国の自衛隊駐屯地開設2周年の記念日だ。※2 要人の訪問日程などの政治的イベントの日取りにおいては、訪問する側及び訪問先の地の歴史的記念日が考慮されることがある。訪問にどんな意味を帯びさせるか（友好的か，脅迫的か，卑屈に恭順の意を表するか，相手方を尊重し敬意を示すか，あるいは，ことさら尊大にふるまうかなど）を気にするからだ（極東軍事法廷で絞首刑が宣告された東条英機らA級戦犯の処刑の日が当時の皇太子アキヒトの誕生日に行われたことは有名。「俺たちに逆らったオヤジの家来たちはお前の誕生日に吊るすからよく覚えておけ」という含意であろうと言われる。）。二つの記念日に、アキヒト天皇最後の沖縄訪問が設定されたのは偶然ではなかろう（そもそも、「琉球処分」の決行日の翌日に与那国の自衛隊駐屯地の開設が行なわれたのが記念日政治である。）。

アキヒト・ミチコの沖縄・与那国訪問は、歓迎される慰霊，慰問の旅という表向きの宣伝（沖縄戦犠牲者の慰霊，日本最西端の離島に訪問）とは裏腹に，ヤマト政府の方針に従わない連中（まずは辺野古ゲート前に集う人たち，次に自衛隊基地強化に不服な人々）を従わせようと（それも，強制的にではなく自発的に）いう底意から企画演出されたイベントである（与那国訪問には，中国を挑発する意味もあるという説もささやかれている。）。何年も前から沖縄開催が決まっているような天皇出席行事は今回入っていないので，比較的最近の企画立案ではなかろうか（私は，名護市長選挙が創価学会の総力を挙げた支援により与党側勝利の目途が立ったころの企画ではないかと憶測している。）。※3

少なくともヤマトのマスコミは，アキヒト・ミチ

コは，沖縄で心からの歓迎を受けたという報道一色のようにだったが，中日新聞（東京新聞）の沖縄空手関係の訪問見学の記事で，熱心に説明する沖縄空手会館の人の話を退屈そうな顔をして聴く（疲れて眠らなくなった？）アキヒト



の少し離れた後ろに，苦虫をかみつぶしたようなシブ～イ顔のおじさん（翁長知事！）が映っているカットが！ 目立たないが，昨年の沖縄慰霊の日に献花に向かう安倍に対し，翁長知事，おじい，おばあ，若者，子どもたちまで皆一様に刺すような厳しい視線を送っている（その視線の先にはさらに読者が位置する）写真を掲載した（たしか新聞協会の賞を受けた）のに匹敵するファインプレーだ。ヤマトの新聞社に，まだ気骨のある報道人もいると信じたい。

※4

2. 次の大きな旅の目的地は，ナント福島！

沖縄訪問に関して，「アキヒト・ミチコ最後の旅」というフレーズがやたらに使われたので，ヤレヤレ，トンデモな「ご旅行」もようやく打ち止めかと一瞬錯覚してしまったが，「最後」は，あくまで沖縄に限った話で，まだまだ旅は続く（らしい）。しかも，次の大きな訪問地は，福島！ 「最後の仕事として，片っ端からなで斬りですか？」という感じで頭が痛い。福島訪問は，6/20から，メインのイベントが全国植樹祭 in 福島（※5）出席，それに被災地慰問，復興視察を組み合わせている模様で，今回は，「復興」を強調する演出という。福島第一原発の近くまで行く企画があるとも。天皇がフクイチの近くに行くという企画の最大のハードルは，放射能の害もさることながら，近くまで行くと，全然復興していない荒涼とした風景が映ってしまい，「進む復興」イメージの偽造に水を差すことにあるとも聞く。てことは，訪問用の復興が進んだように見える一角



（セット？）を作るのか？ 政府の避難指定解除，避難支援打切りなどによる見切り発車的な強制還政策＝棄民政策が進められ，それが各地の裁判所で自主避難者の

損害賠償請求が認められることなどで批判されている中で、天皇・皇后が、福島を訪問し、植樹祭（放射能汚染から身を守るためにはタブーとされている「土いじり」！）に参加し、復興の偽に出演するのは、何たる政治的行動！ しかもインチキ！ フクイチ肉薄に執念を燃やしているのはミチコだという女性週刊誌の報道も（アキヒトはH式15点あるかどうか疑問・・・）。※6

3. 誰の企画・演出なん？

天皇の「公式訪問」は、内閣の助言と承認が要るので、大きな骨格は、基本的に政府の企画立案で、細部の演出や私的な見学・訪問については、宮内庁、天皇家サイドの意向や訪問先の要望も入れて決定ということらしい。なので、今回の沖縄・与那国訪問は、骨格としては、安倍政権の比較的最近の企画に宮内庁・天皇家が乗っての企画、また、福島訪問は、何年も前に決まっている植樹祭があるので、数年前からの企画で、「復興」強調の演出は、最近の政府と宮内庁・天皇家（ミチコにナルヒト・マサコに手本を見せておきたいという意味が強いという説も有力）の意向によるものではなからうか。

4. 貝原画伯の予言

アキヒトが天皇になったとき、強制された「自粛」が終わった開放感と、前のお方よりは「まし」だろうという目の錯覚効果（？）で、よい天皇、少なくとも無害な天皇というイメージを持った人が多かった（私も不覚にもそう思った。）。しかし、アキヒトの即位間もなくの時期に、その正体を見抜き、自分勝手な憲法解釈で「壊憲天皇」となることを予言していた人がいた。貝原浩画伯だ。貝原画伯は、イラストレーターとして、運動系のメディアや書籍にたくさんイラストを提供し、また、政治風刺やエロチックな題材の鉛筆による細密画やチェルノブイリ被爆地の取材による作品集で画集を出すなどし、反天皇制運動、反核運動にも大きく貢献し、既に亡くなった方。その作品に「天皇解釈は朕のもの アキヒト」というキャプション入りで、即位の儀式の装束姿で雲に乗り、はし



やいで、政治家を見下しているアキヒトの姿を描い

たものがある。最近の反天皇制関係のチラシや冊子にも使われているが、今の状況を予言しているようで、その慧眼に驚かされる。※7

5 象徴天皇制の呪術的束縛はアキヒトで打止めに

世襲の君主がいろいろな動きをする制度は、やっぱり理不尽、不合理、弱い立場のものを圧迫する、逆らいにくい呪術的な拘束力を醸し出し、第一お金がもったいないので、即刻ゴメンこうむりたい。

注※1

1879年のこの日、明治政府の担当官松田某が兵隊約300名、警官隊百数十名を率いて沖縄の首里城に入り、琉球藩の廃止と沖縄県の設置を宣告した。

※2 ミサイル戦を想定したレーダー部隊を中心とする現代の防人部隊 等といわれている。台湾有事で海峡封鎖などの事態になったら、まず狙い撃ちされる予定（中国に）

※3 天皇の地方公式訪問（いわゆる「ご公務」というやつ）は、実質的には内閣の発案、企画、宮内庁・天皇家協賛なのだが、形式的には、メインのイベントは、地方自治体の主催の公的行事に天皇・皇后を招待し、それに天皇・皇后が内閣の助言により応じるという形をとり、それに文化的、福祉的な施設の見学やその地の選ばれた人たちとの面談など

（これは私的なご旅行企画的な位置づけらしい）を組み合わせて行われるのが通例だ。地方で行われる例年恒例の天皇出席3大行事の国民体育大会（略して「国体」！天皇杯、皇后杯が男女の優勝チーム

（主催地チームが恒例）に贈られる。）も、全国植樹祭も全国海づくり大会もみな、都道府県知事主催行事だ。今回の沖縄・与那国訪問も、沖縄県知事の招待の形をとり、沖縄県知事が訪問先の市町の長に宛てた警備や応接に関する要請書や指示書を出している。そして、もちろん、ハンパない警備要員が動員される。天皇沖縄訪問期間中、機動隊や公安要員がそっちに貼り付けで、辺野古のゲート前は、平穏（工事用車両は入れず）だったという皮肉な事態・・・

※4 中日新聞3月29日夕刊10面

※5 アキヒト最後の植樹祭。次の植樹祭はナルヒトが愛知で来年のおそらく5月に行う。この5月19日には、植樹祭1年前イベントが名古屋でSKE選抜なども出演してにぎにぎしく行われるとのこと。

※6 週刊女性3月27日号41頁以下

※7 天皇解釈は朕のもの アキヒト